

患者図書サービス「わくわくぶんこ」

ー地域とのつながりー

塚田薫代

静岡県立こども病院図書室

当室は、平成7年（1995）より、患者図書サービス「わくわくぶんこ」を展開しています。小児専門病院のため、絵本・児童書・マンガを約3000冊所有し、ボランティアのみなさんと、入院患児のために楽しい本を届けています。また、平成15年（2003）からは、患者家族への医学情報提供もスタートしました。

今般は、院内のみならず、院外の地域との繋がりについてご報告します。

1、[なぜ地域との連携が必要か]

入院治療し病気が治って退院しても、まだ院内学級に通ってくる子がいるのをご存知でしょうか。なかなか、すんなりと元の学校に戻れる子ばかりではないのです。いじめにあう子もいます。そこで病気や入院生活に対する正しい知識の普及、啓蒙が重要ではないか？と考えました。

2、[学校司書との連携]

平成14年（2002）静岡市「学校図書館を考える会」¹⁾に入会し、毎月1回の定例会に出席し、ブックトークをしたり、メーリングリストや広報での本紹介をしています。

最近では、病気について子どもにもわかりやすく書かれた本が出版されています。

そういう本を紹介し、学校司書を通じて、小・中学校に正しい理解を広めるのが目的です。

活動を通じて知り合った小学校に招かれて、「わくわくぶんこ」についてボランティアのお母さん方にお話させていただいた事もあります。

3、[地区との連携]

平成15年（2003）静岡県図書館づくり交流会²⁾にて「わくわくぶんこ」の活動を発表。

また地元の麻機母親クラブ・麻機児童館と交流、ブックトラックや絵本の寄贈を受けています。

4、[まとめ]

「クラスに小児ガンを経験した子がいて、どう対応していいか不安だったが、情報をもらって良かった」、「〇〇という病気についての本を紹介してほしい」というご意見をいただいています。子どもの病気や入院生活について情報を発信し、地域と連携してゆくことの大切さを感じます。

1)静岡市内の学校図書館司書、教師、ボランティア、市民でつくる団体。現在会員約140名。

2)静岡県内の公共図書館、学校図書館、家庭文庫等関係者が集い、講演会や分科会を設置し交流、年1回開催